

無量寿経作法意訳 ～仏説無量寿経より～

(お釈迦様が説かれた阿弥陀仏の教え)

さんぶじょう
・三奉請

あみだによらい 阿弥陀如来、しゃかによらい 釈迦如来、あらゆる十方の如来、堂内へ入りたまへ。華を散らせ唱えよう。

ほっきじょ
・発起序

お釈迦様は喜びに満ちあふれ、清らかなお姿、輝かしいお顔がひときわ気高く見受けら

れた。そこで弟子のあなん阿難はひざまずいて合掌しお釈迦様に尋ねた。「お釈迦様、本日は

今までにないくらい清く、尊く、そして輝いておいでになります。わたしが思いますには、世間でもっとも尊い存在として、すぐれた境地へ入っておられます。

また、煩惱を打ち負かす雄々しいものとして悟りの世界へ入っておいでになります。また、迷いの世界を照らす智慧の眼として、人々を導く徳を具えておられます。

また、世間でもっとも秀でたものとして、何よりも優れた智慧の境地へ入っておられます。そしてまた、全ての世界でもっとも尊いものとして、如来の徳

を行じておられます。」

そこでお釈迦様は仰せになった。「阿難よ、そなたの問いはたいへん結構である。わたしはこれからそなたたちのために仏について詳しく説こう。だからよく聞くがよい。

仏はこの上ない慈悲の心で迷いの世界をお哀れみになる。この世にお出ましになるわけ

浄土真宗本願寺派 幸教寺

は、教えを説き述べて人々を救い、まことの利益^{りやく}を恵みたいと考えるからである。このような仏のお出ましに会うことはたいへん難しく、千年に一度あるかないかである。今、その真実である阿弥陀如来について語ろう。」阿難は深く頷いた。

・十一句念仏

・^{しじゅうはちがんもん}四十八願文

(一) わたし（法蔵）が仏（阿弥陀如来）になるとき、わたしの国に地獄や餓鬼や畜生がいるようなら、わたしは決して悟りを開きません

(二) わたしの国の天人や人々が命を終えた後、ふたたび地獄や餓鬼^{がき}や畜生^{ちくしょう}の世界に落ちることがあるようなら、わたしは決して悟りを開きません

(三) わたしの国の天人や人々がすべて金色に輝かないならば、わたしは決して悟りを開きません

(四) わたしの国の天人や人々の姿かたちがまちまちで、美醜^{びしゅう}があるようならわたしは決して悟りを開きません

(五) わたしの国の天人や人々が自己や他人の過去のありさまを知る力^{しゅくみょうつう}（宿命通）を得ず、限りない過去のことでまで知り尽くすことができないようなら、わたしは決して悟りを開きません

浄土真宗本願寺派 幸教寺

(六) わたしの国の天人や人々が、人々の未来を予知する力（天眼通^{てんげんつう}）を得ず、数限り
ない仏がたの国々を見通すことができないようなら、わたしは決して悟りを開きません

(七) わたしの国の天人や人々が、すべての音を聞く（天耳通^{てんにつう}）を得ず、数限りない仏
がたの説法を聞きとり、すべて記憶することができないようなら、わたしは決して悟り
を開きません

(八) わたしの国の天人や人々が、他人の考えていることがわかる（他心通^{たしんつう}）を得ず、
数限りない仏がたの国々の人の心を知り尽くすことができないようなら、わたしは決し
て悟りを開きません

(九) わたしの国の天人や人々の欲する所に自由に現れる（神足通^{じんそくつう}）ことができず、数
限りない仏がたの国を飛びまわることができないようなら、わたしは決して悟りを開き
ません。

(一〇) わたしの国の天人や人々が、色々な思いはからい、その身に執着^{しゅうじやく}するよう
なことがあるようなら、わたしは決して悟りを開きません。

(一一) わたしの国の天人や人々が、必ず仏になることが決定しているもの（正定聚^{しょうじょうじゆ}）
に入り、悟りを得ることがないようなら、わたしは決して悟りを開きません。

(一二) わたしの智慧と慈悲の光（光明^{こうみょう}）に限りがあって、数限りない仏国を照らさ
ないようなら、わたしは決して悟りを開きません。

(一三) わたしの寿命に限りがあって、計り知れないほど遠い未来にでも尽きること

浄土真宗本願寺派 幸教寺

があるようなら、わたしは決して悟りを開きません。

(一四) わたしの国の教えをきく者(しやうもん)一人で悟りを開く者(えんがく)が、お互いの数を数え切れるようならわたしは決して悟りを開きません。

(一五) わたしの国の天人や人々の寿命には限りがないでしょう。ただし、願いによってその長さを自由にしたい者は、その限りではありません。そうでなければ、わたしは決して悟りを開きません。

(一六) わたしの国の天人や人々が、悪を表す言葉を耳にするようならわたしは決して悟りを開きません。

(一七) すべての世界の数限りない仏がたが、みなわたしの名、南無(なも)阿弥陀仏(あみだぶつ)をほめたたえないようなら、わたしは決して悟りを開きません。

(一八) すべての国の人々が心から信じて、わたしの国に生まれたいと願い、わずか十回でも念仏して、もし生まれることができないようなら、わたしは決して悟りを開きません。ただし、親殺し、聖者殺し、仏の身体を傷つけ出血させる、教団の和を破壊する五逆(ごぎやく)の罪を犯すもの、仏の教えを誇る(そし)ものは除かれます。

(一九) すべての国の人々が悟りを求める心を起こして、さまざまな功德を積み、心からわたしの国に生まれたいと願うなら、命を終えようとするとき、わたしが多くの 聖

浄土真宗本願寺派 幸教寺

者たちとともにその人の前に現れましょう。(臨終来迎^{りんじゅうらいごう}) そうでなければ、わたしは決して悟りを開きません。

(二〇) すべての人々がわたしの名を聞いて、この国に思いをめぐらし、功德を積み、それをもって心からわたしの国に生まれたいと願うなら、その願いを果たしとげましょう。そうでなければ、わたしは悟りを開きません。

(二一) わたしの国の人々がすべて、仏の身にそなわる三十二種類のすぐれた特徴を欠くようならわたしは決して悟りを開きません。

(二二) 他の仏がたの国の菩薩^{ぼさつ}たちがわたしの国に生まれてくれば、人々を自由自在に導くため、固い決意に身を包んで多くの功德を積み、すべての者を救う。還相^{げんそう}の菩薩として、限りない菩薩行を実践できるのです。そうでなければ、わたしは決して悟りを開きません。

(二三) わたしの国の菩薩が、わたしの不可思議な力を受けてさまざまな仏がたを供養するにあたり、一度食事をするほどの短い時間のうちに、それらの数限りない国々に至ることができないようなら、わたしは決して悟りを開きません。

(二四) わたしの国の菩薩がさまざまな仏がたの前で功德を積むにあたり、供養のための望みの品を思いのままに得られないようなら、わたしは決して悟りを開きません。

(二五) わたしの国の菩薩この上ない智慧について自由に説法することができないようなら、わたしは決して悟りを開きません。

浄土真宗本願寺派 幸教寺

(二六) わたしの国の菩薩がこんごうりきし金剛力士のような強靱な体を得られないようなら、わたしは決して悟りを開きません。

(二七) わたしの国の天人や人々の用いるものがすべてすべて清らかで美しく、形も色もきわめてすぐれていることは、はかりしれないでしょう。たとえ未来を予知する力を得て、知り尽くしてしまうようなら、わたしは決して悟りをひらきません。

(二八) わたしの国の菩薩で、たとえ功德の少ないものでも、わたしの国のぼだいじゅ菩提樹が限りなく光り輝き、四百万里〈地球三九二周分〉の高さであることを知ることができないようなら、わたしは決して悟りをひらきません。

(二九) わたしの国の菩薩が教えを受け、口にとなえて心にたもち、人々に説き聞かせて、心のままにべんぜつ弁舌をふるう智慧を得られないようなら、わたしは決して悟りをひらきません。

(三〇) わたしの国の菩薩が心のままに弁舌をふるう智慧に限りがあるようなら、わたしは決して悟りをひらきません。

(三一) 国土は清らかであり、くもりのない鏡に顔を映すように、すべての数限りない仏がたの世界を見ることができるよう。そうでなければ、わたしは決して悟りをひらきません。

(三二) 大地から天空に至るまでくうでん宮殿・ろうかく楼閣・水の流れ・樹々や美しい花など、わたしの国のすべてのものが、数限りない宝と香りでできていて、その美しく飾られたようす

浄土真宗本願寺派 幸教寺

は天界や人間界に超えすぐれ、その香りはすべての世界に広がり、これをかいだ菩薩たちは、みな仏道に^{はげ}励むでしょう。そうでなければ、わたしは決して悟りをひらきません。

(三三) 数限りない仏がたの世界のものたちが、わたしの光明に照らされたなら、身も心も和らいで、天人や人々に超え優れるでしょう。そうでなければ、わたしは決して悟りを開きません。

(三四) 数限りない仏がたの世界のものたちが、わたしの名を聞いて教えを記憶(きおく)して、決して忘れない力を得られないようなら、わたしは決して悟りを開きません。

(三五) 数限りない仏がたの世界の女性が、わたしの名を聞いて喜び信じ、さとりを求める心を起こし、女性であることを嫌ったとして、命を終えてふたたび女性の身となるようなら、わたしは決して悟りを開きません。

(三六) 数限りない仏がたの世界の菩薩たちが、わたしの名を聞いて、命を終えた後、常に清らかな修行をして仏道を成し遂げるでしょう。そうでなければ、わたしは決して悟りを開きません。

(三七) 数限りない仏がたの世界の天人や人々が、わたしの名を聞いて、地に伏してうやうやしく^{らいはい}礼拝し、喜び信じて菩薩の修行に励むなら、天の神々や世の人々は残らずみな敬うでしょう。そうでなければ、わたしは決して悟りを開きません。

(三八) わたしの国の天人や人々が衣服を欲しいと思えば、思いのままにすぐ現れ、仏の心になつた尊い衣服をおのずから身につけているでしょう。裁縫や染め直しや洗濯

浄土真宗本願寺派 幸教寺

などをしなければならぬようなら、わたしは決して悟りをひらきません。

(三九) わたしの国の天人や人々の受ける楽しみが、すべての^{ぼんのう}煩悩を断ち切った修行僧と同じようであれば、わたしは決して悟りをひらきません。

(四〇) わたしの国の菩薩が思いのままに数限りない仏の国々を見たいと思うなら、いつでも願い通り、くもりのない鏡に顔を映すように、宝の樹々の中にそれらをすべて照らし出して見ることができるでしょう。そうでなければ、わたしは決して悟りをひらきません。

(四一) 他の国の菩薩たちがわたしの名を聞いて、仏になるまでの間、その身に不自由なところがあるようなら、わたしは決して悟りをひらきません。

(四十二) 他の国の菩薩たちがわたしの名を聞けば、残らずみな煩悩という心の^{そくぼく}束縛を離れられるでしょう。そして瞬く間に数限りない仏がたを供養するが、心は乱れないでしょう。そうでなければ、わたしは決して悟りをひらきません。

(四三) 他の国の菩薩たちがわたしの名を聞けば、命を終えて後、人々に尊ばれる家に生まれることができるでしょう。そうでなければ、わたしは決して悟りをひらきません。

(四四) 他の国の菩薩たちがわたしの名を聞けば、喜んで修行し、さまざまな功德を身にそなえるでしょう。そうでなければ、わたしは決して悟りをひらきません。

(四五) 他の国の菩薩たちがわたしの名を聞けば、全ての命を平等にみることができるといえるでしょう。そうでなければ、わたしは決して悟りをひらきません。

浄土真宗本願寺派 幸教寺

(四六) わたしの国の菩薩は、その願いのままに聞きたいと思う教えをおのずから聞くことができるでしょう。そうでなければ、わたしは決して悟りをひらきません。

(四七) 他の国の菩薩たちがわたしの名を聞いて、さとの最上位に至ることができないようなら、そうでなければ、わたしは決して悟りをひらきません。

(四八) 他の国の菩薩たちがわたしの名を聞いて、ただちに説法を恐れることなくすべてを受け入れる(音響忍^{おんこうにん})素直に真理に順う(柔順忍^{にゅうじゆんにん})さとの最上位(無生法忍^{むしょうぼうにん})を得ることができないようなら、わたしは決して悟りをひらきません。

・念仏(六句)

阿弥陀仏、釈迦牟尼仏、十方の諸仏、観世音菩薩、大勢至菩薩、清浄大海衆菩薩にこの身をお任せいたします。

・成就文^{じょうじゆもん}

阿弥陀如来の名(南無阿弥陀仏^{なもあみだぶつ})を聞いて信じ喜び、わずか一回でも念仏し、心からその功德をもって極楽浄土へ生まれたいと願う人々は、みな往生することができ、その悟りの世界から転げ落ちることはないのである。(不退転^{ふたいてん})ただし、親殺し、聖者殺し、仏の身体を傷つけ出血させる、教団の和を破壊する五逆の罪を犯すもの、仏の教えを謗るものは除かれる。

浄土真宗本願寺派 幸教寺

・^{えこうく}回向句

お釈迦様が仰せになる。

教えを聞いてよく心にとどめ、阿弥陀如来を信じ喜ぶものこそわたしのまことの善き友である。だから悟りを起こす心を起こすがよい。

